

気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	4つの戦略的研究プログラムをコーディネートし、国環研ならではの連携研究を進めることや、その成果を社会発信することは大変重要な役割である。	イニシアティブの趣旨についてご理解いただきまして、ありがとうございます。ご期待に添えるように取り組んでいきます。
	国内の再生可能エネルギー生産適地の検討や、IPBES, IPCC, FEへの対応など、各P Gで得られた成果を相互に連携・連関させる重要な役割を担う。金融分野との対話も大変興味深い。	
今後への期待など	本イニシアティブがプロジェクト間の連携・交流にどのような貢献をしたかを把握できるよう、アンケートなど定性的評価も含めた評価体制を検討することが望ましい。	今後、プロジェクト間の風通しや交流等についての進展をご報告できるように、評価の方法を検討します。
	実際に適応策のオプションを政策として実施するためには、研究所外の社会学や心理学の専門家などとも、広く交流するのも有効かもしれない。	適応策の検討にあたり、人文社会科学との連携が日本では遅れているという認識を持っており、今後検討します。
	ESG 投資/ESG 金融については日本が取り残されている状況があり、ワークショップ等を通じて企業との危機感の共有を進めてほしい。	ワークショップの結果、国内のメガバンク等主要な金融関係者の意識は国際レベルに追いついている一方で、中小企業や地方に拠点を持つ企業はこの急速な動きについていけないことが今後の課題であることが分かりました。緩和策と適応策両方を自分事として受け止めていただく情報の出し方を検討します。
	資源・廃棄物分野の脱炭素に向けて、資源・廃棄物分野を含めたより広い枠組みでの取り組みが必要。	資源・廃棄物分野の脱炭素に関しては、本イニシアティブでも物質フロー革新研究プログラムのメンバーも加えた幅の広い議論を行います。